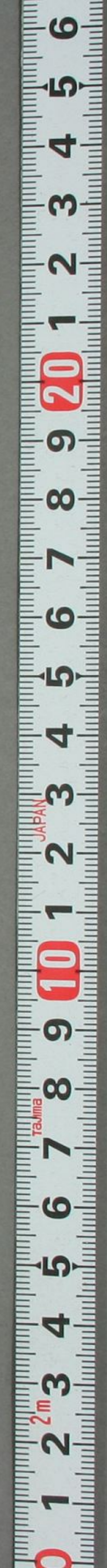


取  
解  
言

~1  
4357



4357

4357  
卷

狀欣詠序

白蓮社天譽法將出則雲集四  
 衆而欣淨域入則風詠十樂而  
 狀穢國雖則心心無心心念無  
 念然凝念於金顏以灑淚於西

狀欣詠序

大正五年三月三十日  
奈良生順氏贈

田中



巖之月。遊心於玉地。以流涎於  
東林之華。唐詩和歌俳諧。以述  
馱欣詠云。往昔廬山遠公。雖開  
蓮社。常觀寶相。間交柳翁。送笑  
虎溪。且麗藻文彩。爭光日月。是

至人之遊戲。三昧也。於序法將  
之爲步。其唯遠公乎。咲曰。我豈  
與彼同途。雖然辨則辨矣。請飾  
之序乎。曰。唯維時法將。在武陽  
金龍山。視巖猶遠公。視求那跋

陀羅也故應需以擬謝云

安永四年乙未仲冬

信北神龍山人巖千丈和南

操筆江都僑居

至人少欲



欣欣詠

釋大我

夫以欣欣淨諸佛出世玄機歸命觀  
聲。衆生入道妙術益其爲德也。滅罪如  
日。消霜生善似月。浮露於是逆者十念  
則出火宅。惡人一稱則乘金臺。此豈非  
難信之法哉。雖然。虛假。疑惑。雜行。邪見。

欣欣詠

憍慢。謗法。此六弊有一者。不蒙護念。光  
攝。其謂之易。往而無人乎。普勸天下之  
人。今幸受爪土。身遇龜木。法下生無安  
心。萬劫有噬臍。須常厭穢。欣淨歸命。觀  
聲。即是法華之妙宗。雜花之玄趣。故文  
殊願生。須摩提刹。普賢求見。阿彌陀佛。  
此我所以斐然。裁賦欣詠也。

厭離穢土

三界無安。火宅中。南馳北騁。主人公  
逍遙預。罵月前。雨。遊戲頻。訶華下。風  
泣暑號。寒常。仵仵。爭餐競。飲更。忽忽  
千辛萬。苦焦和氣。時咽。虐煙。淚迸。空  
也れいといふたといふ人の中まをまをけりて風たといふの  
四方のやうな枯島うらさ世のね

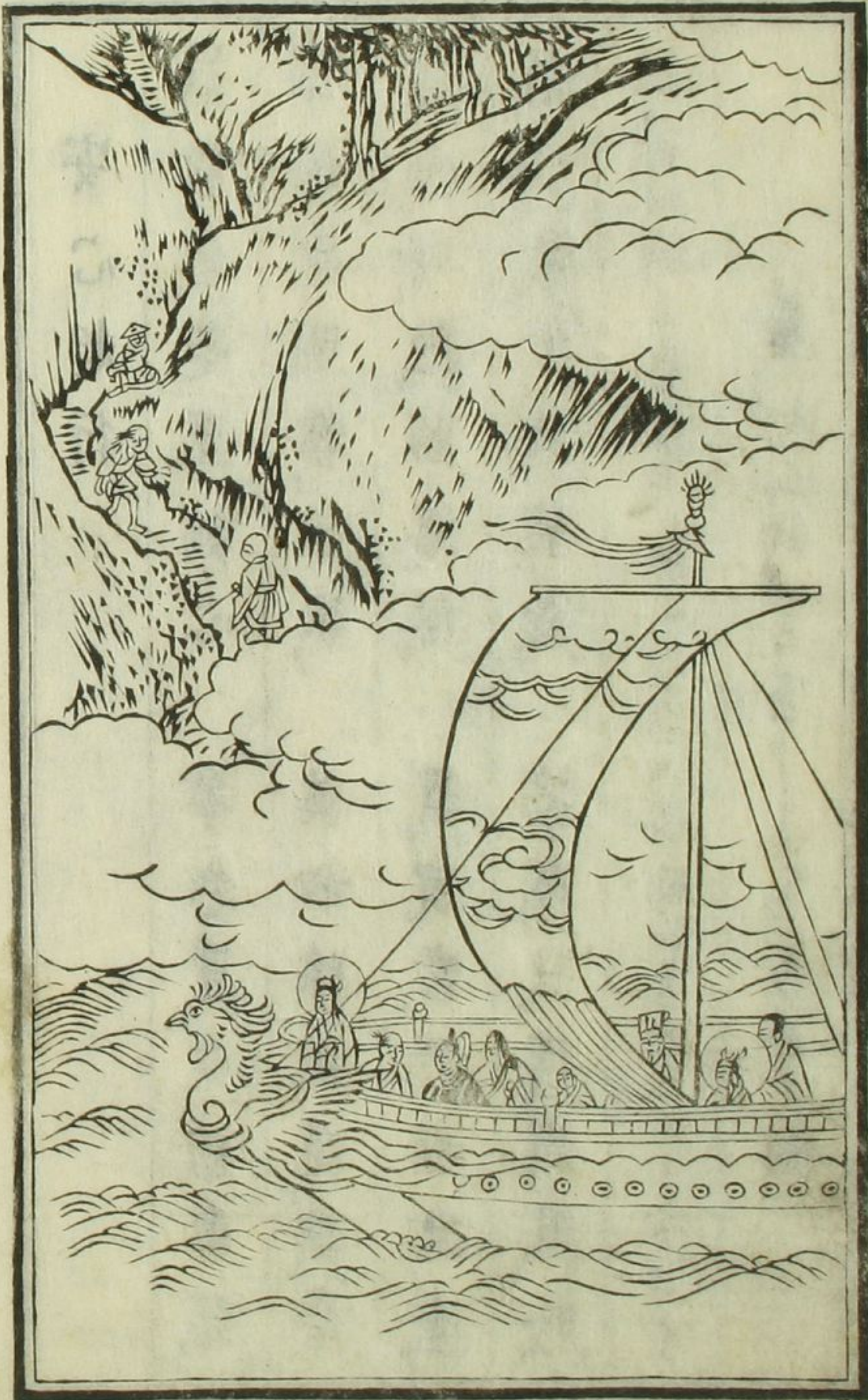




安心起行

厭欣自是至誠心 專念豈非信樂深  
 相好光明都不取 真如唯識絕無尋  
 守愚時抱臨終想 棄智常舒稱號音  
 應作乘船張帆意 悠然只待願風吟  
 乙道此修のたききハ船中のうく海邊とささるる方とありたり

華々山行よりききしうりうけぬ



聖衆來迎樂

易篲茅庵漸入禪  
 紫雲一片藹西天  
 香風蕭颯翻幡蓋  
 華雨繽紛調管絃  
 化佛來迎輝室內  
 聖衆引接繞床前  
 只今將坐金臺上  
 歡喜自離三愛緣

月夜...  
 佛華





蓮華初開樂

歡<sub>テ</sub>託<sub>ニ</sub>寶<sub>ノ</sub>蓮<sub>ニ</sub>華<sub>ニ</sub>已<sub>ニ</sub>開<sub>キ</sub> 身<sub>ニ</sub>成<sub>テ</sub>金<sub>ノ</sub>色<sub>ト</sub>起<sub>テ</sub>徘徊<sub>ス</sub>

佛<sub>ノ</sub>光<sub>ヲ</sub>照<sub>シ</sub>面<sub>ヲ</sub>根<sub>ノ</sub>塵<sub>ヲ</sub>淨<sub>ス</sub> 天<sub>ノ</sub>樂<sub>ヲ</sub>脩<sub>テ</sub>心<sub>ヲ</sub>相<sub>ヲ</sub>好<sub>シ</sub>該<sub>ス</sub>

初<sub>ニ</sub>見<sub>テ</sub>尊<sub>ノ</sub>顏<sub>ヲ</sub>新<sub>ニ</sub>定<sub>メ</sub>位<sub>ヲ</sub> 仍<sub>モ</sub>聞<sub>テ</sub>妙<sub>ノ</sub>法<sub>ヲ</sub>更<sub>ニ</sub>跳<sub>ル</sub>臺<sub>ニ</sub>

回<sub>テ</sub>頭<sub>ヲ</sub>菩<sub>ノ</sub>薩<sub>ヲ</sub>多<sub>ク</sub>又<sub>モ</sub>手<sub>ヲ</sub> 明<sub>ク</sub>讚<sub>ム</sub>悠<sub>ク</sub>悠<sub>ク</sub>往<sub>テ</sub>也<sub>ト</sub>來<sub>ル</sub>

やうりゆるりあはるるあまのふ月れいふはるるやうりけり

華<sub>ノ</sub>初<sub>ニ</sub>開<sub>キ</sub> 身<sub>ニ</sub>成<sub>テ</sub>金<sub>ノ</sub>色<sub>ト</sub>起<sub>テ</sub>徘徊<sub>ス</sub>



身相通樂

紫金光聚百由旬

智福莊嚴具一身

四八威容勝天主

一二三通力壓神人

逐心進退張教網

隨念周旋轉法輪

從是將來無運步

十方聲色見聞新

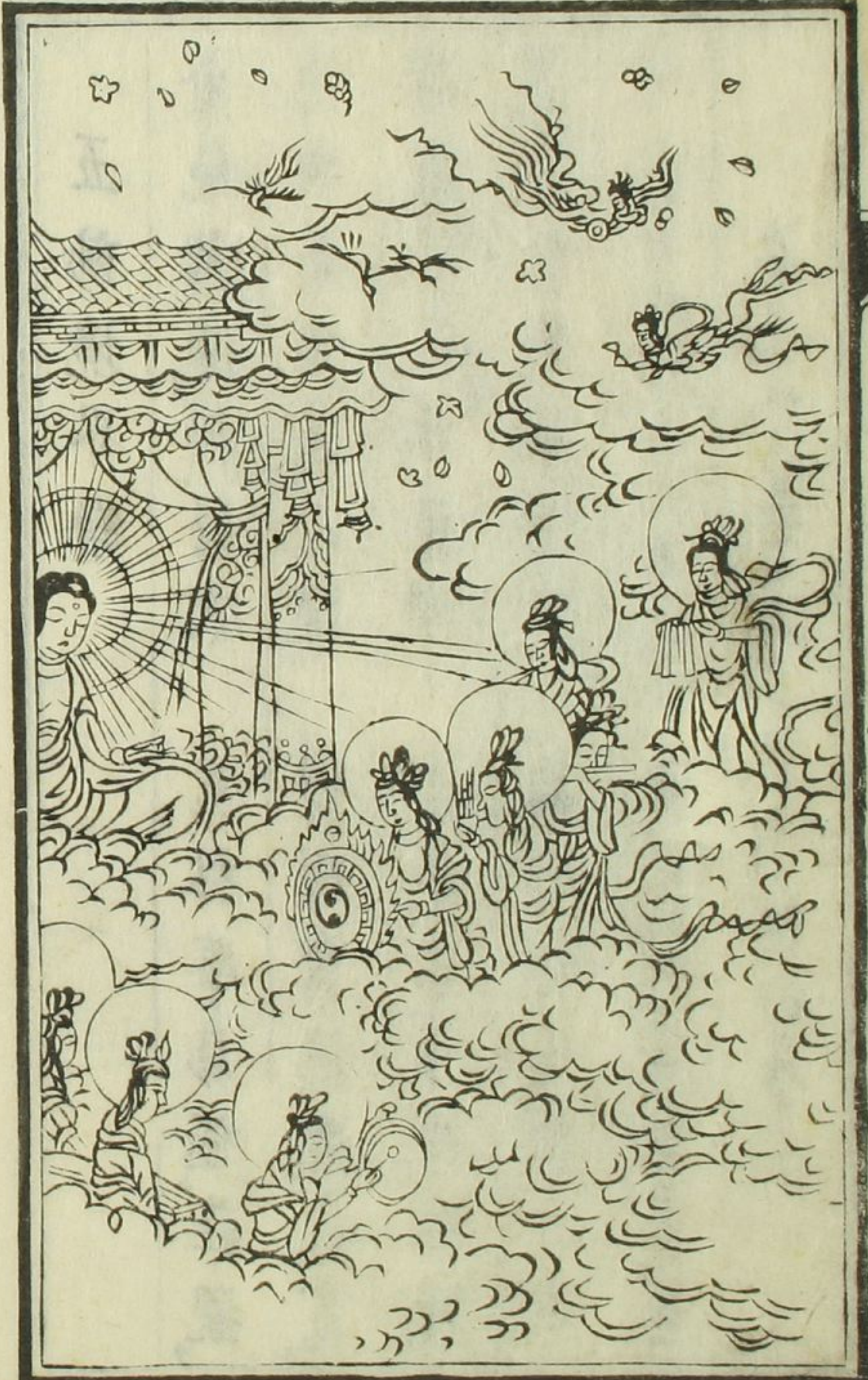
たつては子妙なるも色れがまゝに坐するも事乃國くとほる  
 心 冥れ色にたつては子妙なるも事乃國くとほる



五妙境界樂

金地清涼無暑寒 玉林華鳥極莊觀  
 美衣美食隨心現 寶殿寶池應念寬  
 遊戲天人常舞樂 逍遙菩薩更歌歎  
 滿空雲網風鈴外 萬物交光國土安

何にかとんけまうにあさるる國にまむてふまらるるまのま  
 面ふり華ふらるるまらるる樂けまらるる



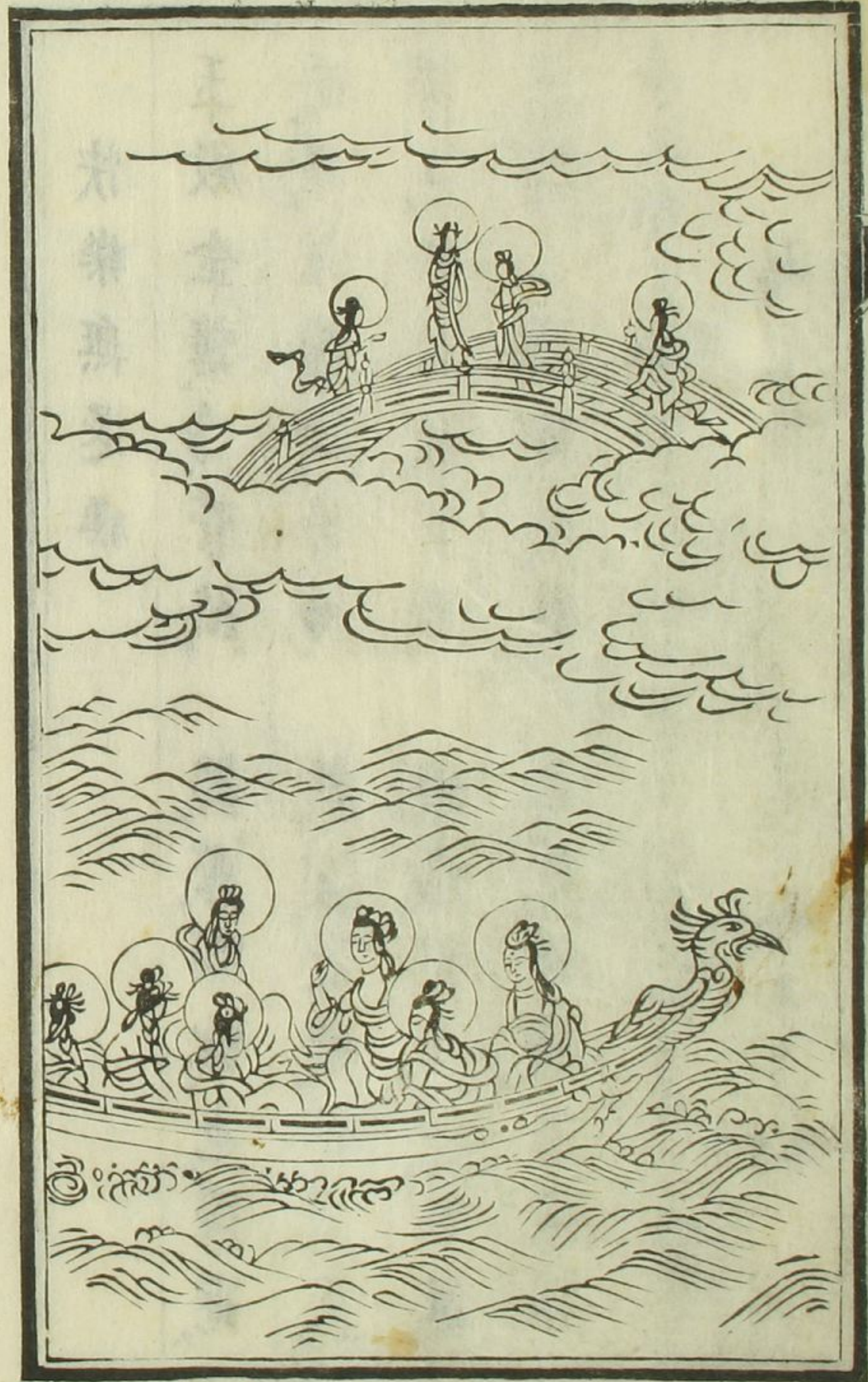
羅州誌

快樂無退樂

玉殿金樓鳴管絃  
 調聲嘲詠也踰躑  
 遊乘流舶歌蒼海  
 戲渡飛梯舞碧天  
 携手吟行歡果報  
 解顏對坐語因緣  
 逍遙三昧樂無退  
 常現神通不老仙

至誠極乃國よまむいふまゝに  
 極ふたふたすーしー船あそび

大教家



聖衆俱會樂

寶殿寶池寶樹林 聖衆交接斷黃金  
 遊行遠路談連袖 戲坐長時笑披襟  
 相好爭光還踊躍 神通競力往呻吟  
 方來大士猶蘭友 一見皆無胡越心  
 身のよりのみればみたののふもの何のけのいのうのあのまのこ

あまのりよそへんかき事をおもふまことふし



見佛聞法樂

常在無量壽覺前  
 講堂高設真如座  
 化佛音塵任大小  
 風林水鳥聲三寶  
 諦聞妙法見心蓮  
 精舍廣開實相筵  
 聖衆指教利人天  
 鈴響也爲一乘詮  
 多まなく何ん他んにしては妙なくは法をすべしき也  
 是の聞つたるもも常に彼處也



昇作言

七

引接結緣樂

天眼一開見世人 百千多是我雙親  
 隨緣引接與安樂 逐境方便拔苦辛  
 池上戲遊心不濁 華間笑語思無塵  
 遂垂手振教風去 忽拂疑雲真月新

了去一也れ親多法如くは六乃ち表おもひてんてん  
 へんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

五福田印



隨心供佛樂

稽首欽崇諸佛前

隨心供養六時旋

散華自國三千土

奏樂他邦十萬天

瞻仰尊顏懸念止

稱揚妙體盡言遷

若人無有神通力

何得須臾往也還

若人無有神通力 何得須臾往也還

少者亦多向方好佛多向華





增進佛道樂

極樂正依無退緣

佛光常照攝人天

聖衆交接如觀世

善友群居似普賢

水鳥樹林聲妙法

風鈴羅網響玄詮

見聞自勸歸三寶

進行終成大覺仙

娑婆世界處處皆有佛道之門

善心くも喜ばせり山よのちりきま



普勸淨土

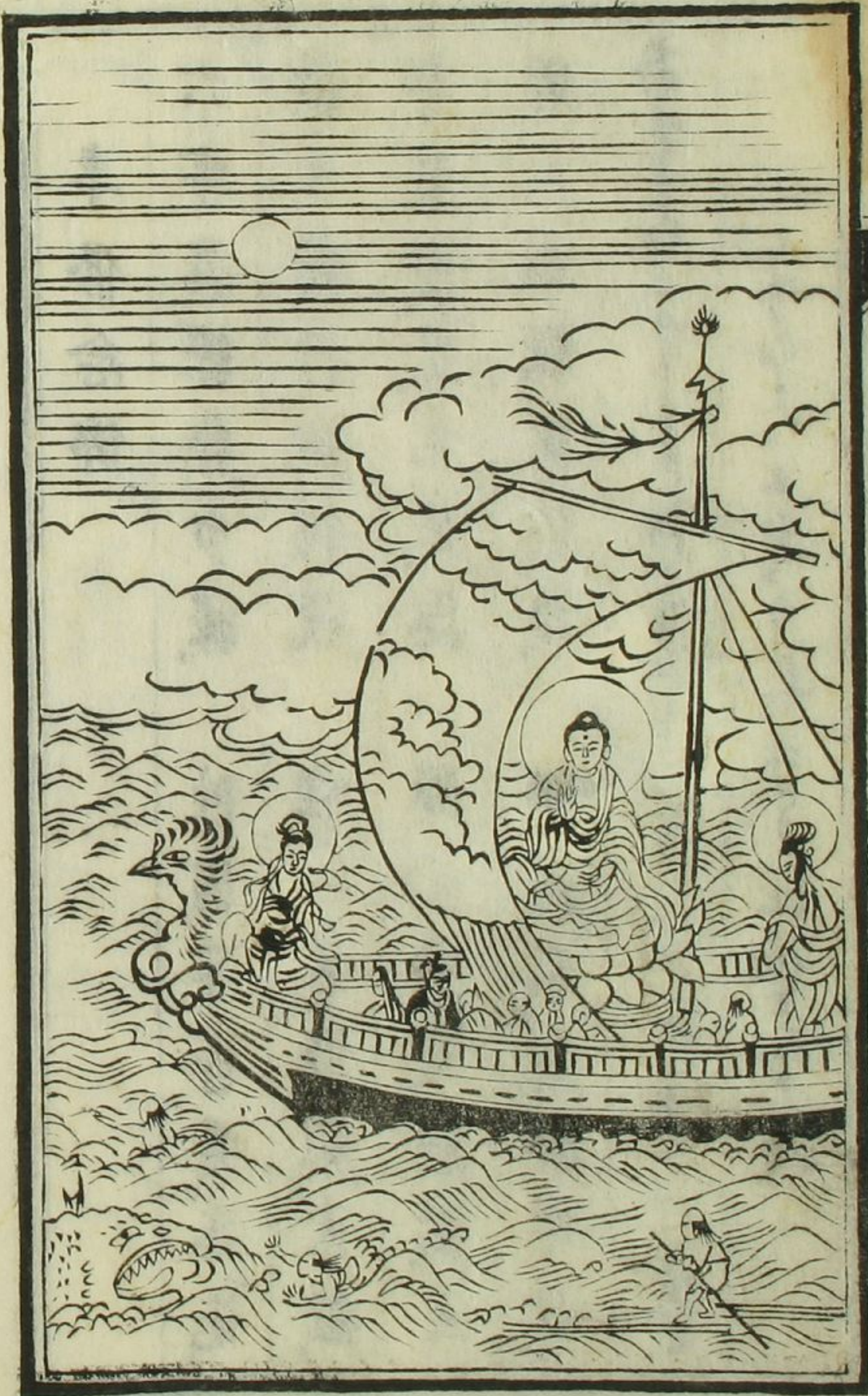
高坐紫雲觀宿緣 瓦夫發願作金仙  
 唯心淨土莊嚴潔 本性彌陀相好鮮  
 宗鏡磨來背東往 清規捨去望西還  
 若言之外求頭者 佛祖何為稱妙禪  
 色なりなきをみちに佛と同しんをわるぬを國  
 文殊と月より行るのの那



專修念佛

六字真經非少緣 往因多善是為先  
 數千雜行如輕筏 唯一專修似大船  
 妄浪浸星生死海 疑雲覆月涅槃天  
 若人非假風帆力 何得巡遊樂岸前

あまのこころをきこむとて  
 月をみてふきくも  
 如くして誓ふは



去此不遠

安樂去斯萬億天	無量不遠現人前
十疑新解訛依正	三釋更論繩過愆
往古誰聞違玉牒	卽今我見逆金仙
譬如日在由旬上	光入晶珠生艾烟

意也試何またとくん自らむきぬ水子や喜月丸面乾  
 意也試何またとくん自らむきぬ水子や喜月丸面乾

狀歌蘇

七



獸穢吟

堪忍總無安。人間仔細看。陰陽交受質。  
 手足定成官。冷熱穿皮肉。屈伸摧骨肝。  
 產堂藉荊倒。寢室擁衾搏。匍匐吮乳。  
 步行。嗔乞餒。老來顏色變。衰至相光殫。  
 霞起日多過。蜩鳴耳少完。顧身泡未滅。  
 想命露將乾。遊說正凌暑。戲論更禦寒。

華開狂雅會。月出醉騷壇。拂袖善朋別。  
披襟惡友殘。互持千歲恨。誰合萬年歡。  
應對登高嶽。經營渡大灘。名園招恥辱。  
利藪抱欺謾。日日縫衣服。時時致飲食。  
一窮爲亂易。百病得治難。進退桴流棹。  
往還馬落鞍。嫌疑髒割衿。震怒髮衝冠。  
降敵暫怡悅。棄恩長嗟嘆。皺眉折楊柳。

張臂刈芝蘭。歌恐損絃撥。舞思破袂襴。  
褒貶接臬鵬。抑揚斷鳳鸞。東西讒虎走。  
南北誑龍蟠。貪狼回頭嘯。癡狐垂尾觀。  
蒸砂焦和氣。鑊水振顛顛。生涯如發矢。  
死期似彈丸。縱習返魂術。何煉延壽丹。  
寂林烟片片。苦海浪漫漫。須坐誓船上。  
速臻樂岸寬。

あゝあゝ	六のらまは	あゝあゝ	十や又も
はみれ	なごめ	うらめ	鬼乃
たわれ	くらげ	ふた	けり
い	こ	ま	己
あ	く	飯	お
ふ	う	む	た
あ	か	あ	い

はみれ	たわれ	い	あ	ふ	あ
よ	あ	く	海	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ	あ

欣淨吟

極樂總安全。道遙成大仙。等持做音至。  
信願擬殊賢。龍樹簡難易。馬鳴募勝緣。  
撓棹自修筏。披帆他誓船。淨穢絕無問。  
起居何有捐。名號聲續續。默欣念綿綿。  
常得靈神護。終蒙報佛憐。智愚從落日。  
善惡託開蓮。覺主輕行雜。執友重心專。

摩頂授懸記。抵掌笑長眠。容儀皆壯肅。  
面像悉艷妍。又手金臺上。低頭玉座前。  
供華巡十萬。對月見三千。陶陶爲歌舞。  
營營聽管絃。山河隨意現。冠服應身連。  
旣調溫涼快。奚受暑寒愆。尊體虛空聳。  
寶林國土旋。宮殿爭光潔。樓觀競色鮮。  
挺荷池濺濺。比翼鳥翩翩。遊步瑠璃地。



戲談琥珀筵。飛閣倚欄楯。流舟扣柂舷。  
時操奇曲。唱。間。委。異。形。躑。飲。食。八。珍。合。  
正依百法宣。頓悟真性。妙速入實相。玄。  
感果是非漸。種因豈不圓。新乘紫雲。往。  
更避黑風。還。四。辯。張。教。網。六。通。振。化。權。  
勿疑舒舌證。可習破顏禪。餘經都滅。後。  
特留度人天。

むさしの そけいそふた のり性そ 舞乃龍そん  
あけなほ 月乃そふた とうみそあ ちとくしそふた  
てふれて ちんじ躍り ぬう侍そん りんためそん  
かろひまハ ちんじ躍り ちんじ躍り ちんじ躍り  
たすの地 金れやう かなそそ おんそひいそ  
はしむ毛 遊い戯ま ちんじ躍り ちんじ躍り  
阿そそ 百れあそん みるそたり 妙なるそ

分にくり さしおほさるゝ しまなく 何れおほり  
 まろけと 四方に伸ぬ つけは、 交りたのむ  
 なれぬ あめさるゝ 山川を ありんか  
 春もまよ うれしはは ともく 怪むは  
 おのほく 神よおほさるゝ かなく 花さ  
 ぬおほさるゝ ぬおほさるゝ ぬおほさるゝ ぬおほさるゝ

黙欣吟

遁世閑林蓋四隣茅齋容膝樂孤貧藜  
 羹蔬食常濡口綿服麻衣更蔽身履霧  
 朝朝汲流水帶霞夕夕拾枯薪之遐之  
 邇立如鶴移北移南居似鷄州路都無  
 迎善友柴門遂不送嘉賓靜坐弄筆澁  
 落袖吟行羨月淡沾巾悠然見雀梅遊

伏欣吟

三

鵬莞爾笑蜂趁戲人蛛網高張期蝶住  
 鶯巢博構飼鷓巡濛騰梅雨洗心地蕭  
 颯松風拂客塵間握芝蘭香慰氣徐回  
 荻菊色怡神狂寒欲得金城果醉暑將  
 離火宅因老足何為陶子步衰顏豈效  
 遠公贖只今惟待紫雲唄日望西天時  
 欠伸

法うら 道の 務もきて 終たむ終て  
 なけり きたりしを くらせり うちよみ  
 世にてい けりし罪乃 なるまに ちうひのねふ  
 のうね 今もまはと ころり ありさため  
 一向 古き経師の 不説阿婆 本はれおん  
 風はうせ ちうこそぞ 彼乃岩下 いまんとする  
 ずれよ ちやうまはく くらへ ちやうあめ

む	ま	の	ま	れ	む	る	は	ま	の	く	あ	ら	る	ま	の	ね
お	も	ろ	れ	ち	の	ひ	の	た	ら	る	ら	ら	ら	ら	ら	ら
し	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
あ	の	の	ふ	や	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
あ	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
あ	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら

風をよみける色乃る善業とせしむるの才と相成ひしり高き阿耨多羅三藐三菩提  
 に入し月夜如くともく白くも候なり

夫	十	界	唯	一	心	心	外	無	別	法	心	抱	瞋	恚
身	成	地	獄	心	抱	貪	欲	身	成	餓	鬼	心	抱	愚
癡	身	成	畜	生	心	抱	闕	諍	身	成	修	羅	心	抱
五	戒	身	成	於	人	心	抱	十	善	身	成	於	天	心
抱	諦	法	身	成	聲	聞	心	抱	緣	理	身	成	獨	覺
心	抱	六	度	身	成	菩	薩	心	抱	一	實	身	成	佛
陀	謂	之	能	隨	染	淨	緣	遂	分	十	法	界	當	知

一念念佛。一念佛。彌陀。十念念佛。十念佛。彌陀。百千萬念。亦是彌陀。其孰爲之。非是。

心作佛。是心是佛。之玄義哉。

安永四年冬十月望。孤立道人自書於武陽金龍山姥池愛蓮庵時壽六十七。



默欣詠終

默欣詠跋

欣。淨刹者。可默。緣國。雖欣而不。  
默。猶繫舶張帆。奚得隨願風哉。  
孤立道人。裁默欣詠。職由于此。  
矣。予乃感仁端。暮綠同舟。以流。

四海若有瀆而齊不狀欣者則為蓮池之勝友也

安永五年春三月之坐

湖東釋大定拜跋



